



ごあいさつ

あたらしい年をご健勝でお迎えのこととお喜び申し上げます。

日頃からのご支援ご厚情に感謝いたします。昨年は春先から我々がかつて経験したことのない新型コロナウイルス感染が世界中に蔓延し、とてつもない拡大を見せています。収まりを見せたかと思えば拡大し、本年も決して予断を許さない状態です。くれぐれもご自愛いただき今しばらくお気をつけて毎日をお過ごしください。

昨年は議会でも感染症対策やそれに伴う経済対策に取り組みました。国、県、市が大型補正予算を組み、新型コロナウイルス対策としてそれぞれの生活を守るため、社会活動や事業継続のため給付金、助成金、貸付、猶予等について対策がなされました。

国、県、市と約60項目にわたるこうした制度をわかりやすくまとめ、昨年4月、6月と報告させていただきました。今後もこうした努力を続けてまいります。



今回は、前回の市政報告以降の活動についてご報告します。

●令和2年第2回定例市会(9月18日—10月28日)決算特別委員会第2分科会 健康局・水道局・環境局審査で質疑をいたしました。紙面の都合上健康局の質疑について、Q&A方式で報告いたします。

●自由民主党神戸市会議員団は将来の神戸市のあるべき方向を求めて東京、会津若松を訪問しました。

東京では三宮再整備事業の参考のため、国家戦略特別区域計画 第1号案件である竹芝エリア(20万㎡)の再開発とその中心となる最先端ビル「東京ポートシティ竹芝ビル」を視察しました。紙面の都合上写真のみとなりますがお許しください。

会津若松市では、東日本大震災によって被害を受けた市が国の復興支援を受けてすすめている最先端のスマートシティについて、その取組と成果を調査をしました。視察内容については4頁に報告します。

東京ポートシティ竹芝～オフィスビル



東京ポートシティ竹芝～スキップテラス



●菅 義偉内閣総理大臣を訪ね「神戸の新たな未来に向けた要望」をいたしました。(11月12日)

- ・「特別自治市」制度の早期法制化を
- ・「デジタル庁」の拠点を神戸へ
- ・国際都市・神戸の更なる発展に向けた支援を
- ・海洋産業都市・神戸の発展に向けた支援を
- ・水素利活用モデル都市・神戸の発展に向けた支援を



5項目にわたる要望書

および新型コロナウイルス感染症に関する支援迅速化のため、政令市の権限拡大について要望しました。



自民党神戸市会議員団と神戸市長、菅総理に要望

●西村康稔経済再生担当大臣を訪ね「新型コロナウイルス感染拡大で打撃を受けた地域経済の支援拡充」ほか数点を要望しました。(11月13日)

新型コロナウイルスの感染が収まらず、私たちの日常生活や社会活動に影響しています。そうしたなか神戸市会議員として感染予防に注意を払いながら、日夜頑張っています。私どもでできることがあれば遠慮なくお申しつけください。くれぐれも健康にご留意し、お過ごしください。



菅総理と



自由民主党神戸市会議員団
西村康稔大臣に要望

決算特別委員会 第2分科会 令和2年10月2日 健康局

1. コロナ対策について

平野 達 司 コロナ対策とMY CONDITION KOBEの2点伺いたい。
コロナ対策について。国が推奨するCOCOA(新型コロナウイルス接触アプリ)と兵庫県の新型コロナ追跡システムがあるが、市としてどう対応されたか。

花田 健康局長 市としてホームページや広報紙で登録を呼びかけた。

平野 達 司 国のCOCOA開始日6月19日から市の9月29日時点のPCR検査の累計が1万4218件ある。この方々にCOCOAのアプリの推奨や登録の依頼はしたか。あわせて感染者654件にCOCOAの入力はされたか。

花田 健康局長 PCR検査を受けた方に推奨していない。感染者の方には申し出があれば登録してくださいとの案内にとどめている。登録することで機能するので少しでも登録するよう徹底していく。

平野 達 司 インフルエンザとコロナ、症状がわからないケースが多いと思うが医療機関の検査体制で短時間で検査結果がわかる抗原迅速キットが有効と思うが。

樋口健康局担当部長 抗原迅速キットの活用は医療機関に依頼するとともに、PCR検査も自院での検査、民間の検査機関への契約による検査と、両方行うよう依頼している。

平野 達 司 コロナの関係で地域の皆さんから多くの問い合わせがある。万が一感染したら退院までどういう流れになるのか。患者さんのフローチャート、図式化してわかるような広報すべきではないか。

樋口健康局担当部長 今後ホームページにフローチャートを掲載する。



フローチャート図掲載のHP



質疑後、作成されたフローチャート図です。

2. 健康アプリについて

平野 達 司 神戸市が作った健康管理アプリ MY CONDITION KOBEについて伺いたい。健康創造都市KOBEの推進としてこのMY CONDITION KOBEが昨年4月から運用開始されたが、市民の健康増進が目的と思うが目指している先は。

花田 健康局長 目指すのは2点。1点目は個人の健康づくり。市民はこのアプリを利用して健康管理し、アプリから健康アドバイスを受け、楽しみながら健康になる。2点目はそこで集めたデータをビッグデータ化する。それをもとに新しい知見を政策に反映する。効果が検証された新サービスを市民に還元する。誰もが健康になれる街の実現を目指している。

平野 達 司 究極は予防医療である。新しい技術と情報を蓄積しビッグデータ化し予防医療の実現を目指すべきと思うが。

花田 健康局長 いわれるとおりで、ビッグデータを通じて予防医療のほうにシステムを作っていく考えた。

平野 達 司 MY CONDITION KOBEは人間ドックの情報や画像のAI診断の情報を速いスピードで取り込んでいく能力を持っている。朝ご飯や昼ご飯の写真を撮ることで、品名の識別反応やカロリー計算がすぐ出てくる。しかし機能は優れているが継続利用は少ない。大きなメリットになっていない。

熊谷健康局副局長 健康アプリの継続利用率30%で少ない。研究や実証を実施していくには継続利用率を高める必要がある。

平野 達 司 MY CONDITION KOBEは文部省の世界に誇る地域発研究開発・実証拠点推進プログラムとして5年間の国の支援を受けて生まれたプロジェクトである。この5年間の先行している有利性を有効に使うべきだ。神戸の医療産業都市の財産でもある。知恵と民間の力を活用して予防医療に努め価値を見出してほしい。

熊谷健康局副局長 実証事業、学術研究を加速させ、得られた知見で予防医学に生かしていきたい。

神戸市議員平野達司(たつじ)事務所
神戸市兵庫区東山町2丁目8-61マルシン市場2F
TEL:078-531-8780 FAX:078-531-5301
メールアドレス:th.tatsuji.hirano@gmail.com



平野たつじHP



平野たつじ Facebook
神戸市の情報をお伝えいたします。

神戸市会の
本議会、委員会を
インターネットにて
閲覧できます。



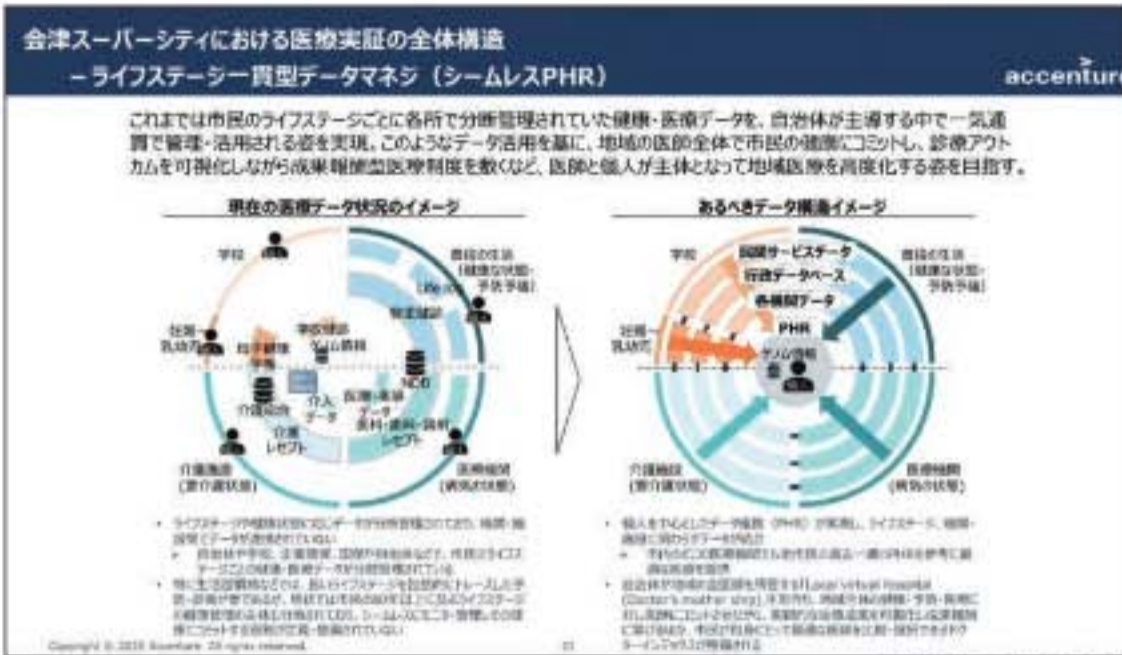
神戸市会

3.スマートシティについて

平野 注司 先進的に進んでいる福島県の会津若松市の事例を紹介します。震災復興として取り組み、スマートシティの先駆的などところとなっている。一般的に市民が行政の情報を得るには、市の広報紙やホームページ、あるいはいろんなアプリからと情報源はバラバラ。しかし会津若松+（プラス）としてすべて1つになっている。さらに情報は取りに行くものでなく個人個人の個人情報も登録しているので、状況に応じて情報がプッシュ型で通知される。たとえばお子さんのいる家庭には、あるいは単身赴任の方にはとそれぞれの情報がプッシュ型で来る。予防医療の世界では会津若松+（プラス）は病院の先生方の協力で処方箋やお薬手帳といった情報に最終的には電子カルテも統合する方向で進められている。もしこれができれば、例えば意識不明で病院に運ばれても、こういった統合情報があれば即、最適な治療ができる。MY CONDITION KOBEも会津若松のように市民が必要な情報が情報価値として接続できるよう進めていただきたい。

熊谷健康局副局長 委員から会津若松市の先進的なスマートシティの取り組みについて指摘を受け、ホームページで拝見した。ぜひ会津若松に視察し、その取組等勉強したい。そして神戸にどのように活用できるか検討する。

平野 注司 私も行っていない、ぜひ行きたい。会津若松市には最先端のIT企業やベンチャー企業が集積し、大手企業も進出している。それらの企業から最先端の情報が入ってきて、市民の意見と新しい技術でどんどん問題を解決し、市民への価値を高めている。神戸でもできると思うのでぜひ一緒になって取り組んでいきたい。最後に新型コロナの感染拡大で医療機関、介護施設、学校等クラスターが発生し、終息の見通しが立たないが、今後とも十分な対策を取られたい。



アクセントゥアの資料より

決算特別委員会 第2分科会 令和2年10月5日 水道局

- 人口減少に伴い、水の需要が減少。
一方水道施設の経年劣化で膨大な管路の補修や維持管理の増加による水道事業の今後の経営について
- 新しい技術の取り組みや給水収益が減るなど厳しい経営環境などの課題解決のため、昨年東京都、横浜市、大阪市等が水道ITC情報連絡会を立ち上げた。その後多くの政令市が参加する中、神戸市の参加について
- 水道技術者の技術継承のデジタル化について
- 烏原貯水池の2.7キロの水と森の回遊路の整備について

以上4項目について問題を指摘し、提案も含め質疑をいたしました。



決算特別委員会 第2分科会 令和2年10月8日 環境局

- 民間企業では自動化、ロボット、AI等活用しているが環境局のごみ処理施設やパッカー車などのシステム化について
- 大型ごみの受付にLINE申し込みができ、決済も完了して、シールをはる手間をはずすようなシステムにできないか
- ごみの減量について
- ごみの分別概念がない外国人や留学生に日本のゴミ出しルールを浸透するための取り組みについて

以上4項目について質疑しました。

質疑応答のやり取りは紙面の関係からエッセンスだけを取り上げ、多くの内容はカットしました。質疑でのお互いのやり取りは敬語を入れ丁寧な言葉遣いですのでご理解ください。

また質疑の中でスーパーシティ構想を進めている会津若松市への視察が11月5、6日に実施されました。神戸市当局と議会からは自民党神戸市会議員団が参加しました。

神戸市会自民党会派で「会津若松スマートシティAiCT」を視察しました。 視察目的とその内容について報告します。

視察目的

東日本大震災後、会津若松市では市の代表的な企業 富士通の会津若松工場（チップ）が撤退、従業員とその家族2万人が800人に激減。大幅な人口減少に見舞われた。そうしたなかで国の震災後の復興支援として会津若松市に選定されたのが「デジタルシフトによるスマートシティ」であり、その先駆的な取り組みについて大いに関心を集めていた。このたびは直接会津若松市に出向き、その内容と進捗状況を把握し、神戸での活用を検討するための視察となった。

視察日程

- ・11月5日 16:00-17:45
アクセント・イノベーションセンター 福島センター共同統括 中村彰二朗様
内容：会津若松市におけるスマートシティの取り組みについて
- ・11月6日 9:00-10:30
TISサービス事業統括本部 会津サービスクリエーションセンター長 岡山純也様
内容：会津若松市における地域デジタル通貨について
- ・11月6日 10:30-12:00
会津若松市 企画制作部 企画調整課 主任主事 高橋俊樹様
内容：会津若松市における行政としてのスマートシティの取り組みについて



アクセント 中村さんの講演



講師の皆さんとともに

会津若松市でのスマートシティの取り組みについて（講演及び説明内容から） 資料は、アクセントの資料より

— 市民主導のイノベーションが起こる会津創生8策を策定 —

1. 一極集中から機能分散へ（自立・分散・協調）
2. 少子高齢化対策としてのテレワーク推進
3. 予防医療の充実のためのPHR（医療・介護・健康のデータを総合的に収集、一元的に保存）
4. データに基づく政策決定への移行（オープンデータ・ビッグデータ・アナリティクス）
5. 高付加価値産業誘致と起業支援
6. 観光・農業・製造業の戦略的強化と生産性向上
7. 再生可能エネルギーのシフトと省エネの推進
8. 産官学による高度人材育成

— 会津若松市のプロジェクトの取り組み内容と実績、成果について —

会津若松市では市民中心のスマートシティ実現のため、個人情報についてはオプトイン（情報の利用についてあらかじめ許可を与えること）を大前提に、市長と市議会が「データは市民のものだ」と宣言しました。そして、地方の在り方としては三方よしの社会（1. 市民・住民 2. 地域 3. 産業・企業のすべてがよしの社会）を目指しています。



会津若松市のこれまでの（2020年までの）実績として

- ・官民とわず関係交流人口が著しく増加。100団体
- ・プロジェクトに必要な人材を会津大学と育成。1000人
- ・スマートシティAiCTの実現（企業誘致オフィス）
- ・生産年齢人口が地元で定着。27社
- ・地元企業が生産性が向上。30%

地域特性を生かした注目されるプロジェクト・スマートシティ会津若松を立ち上げ、首都圏などのAiCT関連企業などの機能移転ニーズを踏まえ、受け皿としてオフィス環境や集積拠点を整備し、本格的な企業誘致、機能移転を実現（会津ICTビル[AiCT]）しています。そしてこのプロジェクトは今日現在も続いています。

— 取り組んでいる具体的な内容 —

【防災について】

防災避難は、出張先や旅行先などどこにいても滞在先の地域で避難できるようマイハザードを推進、有事の際は位置情報をONにする。スマートフォンが誘導する。

【予防医療について】

がん予防のためにDNAデータをオプトイン（情報の利用についてあらかじめ許可を与えること）で提供してもらい、デンマークに1万人の医療データを送り、がん予防に生かそうと進めている。オプトインされた市民のPHR（患者の医療・介護・健康のデータを総合的に取

集、一元的に保存）をデータ化していればどこにいても個人医療データが医者として見える。AI診断、オンライン診療を進め、若い医者が働きたくなる医療環境を作る。これにより医療費削減につながる。

病院の滞在を15分にするプロジェクトを2021年3月に立ち上げる。

チャットにより事前問診、診療予約で診療時間前に事前連絡、病院までのルート

時間案内、診療後の支払いは待ち時間なしのデジタル

キャッシュ、処方箋連携で薬は宅配で届く。医者も音声で自動カルテに入力される。

医者はカルテ入力事務から解放される。スーパーシティ特区で実行予定。



TIS岡山さんの講演

【教育について】

会津若松の小学校から中学までの32校と市立幼稚園も含め、学校での出来事、学校使、学校のイベント、災害緊急情報などが「あいづっこ+」アプリ上ですべて閲覧が可能。学校と保護者をつなぐツールができており、HPも共通化し各学校が見える化し、学校同士が競い合うため質が向上。

【観光について】

観光ホームページ VISIT AIZUを立ち上げ、それぞれの国々の文化、慣習、食生活などを調査研究の上、それぞれの国の人々が興味を示す観光ホームページに特化した。会津若松17市町村全部の観光スケジュールと合わせ、イベントを周遊できるようにした。結果5.3倍までビューが増加。

【農業について】

農業を改革し、移動物流を見直し、農家とお店と直結し、フードロス削減、農業の生産性を上げた。最低農家の収入が年収1500万円目標。

【地元中小企業について】

会津の73社の中小企業を30%成長させることを目標に、大企業と同じクラウドシステムをID課金利用でデジタル化への負担を軽減し効率化へ。28%生産性UP。給料28%UP。

【行政について】

3年後庁舎を建て直し、行政受付カウンター窓口を廃止、すべてデジタル化に。時間外、休日はLINEのチャットボットで対応。

ICT企業誘致として、家賃2年間無料で体験型サテライトオフィスで27社400人。

【地域デジタル通貨について】

地元商店を応援するため、手数料のかかる、大手スマホ決済やクレジットカードを使わず、手数料が要らないデジタル地域通貨を作る。POSシステムと決済情報を紐づけることにより、誰が、何を、いつ、どのくらい購入したかがわかり、次の支援の政策に結びつく。

以上、講演内容や、議員側の多くの質問に対しお答えいただいたことを箇条書きにまとめました。紙面の都合上略した部分があることをお許し下さい。